

栃木県のがん罹患状況

がん罹患数・死亡数の推移

- 罹患数全体は増加傾向。年代別では、65～74歳代が最も多く、65歳以上の罹患数が増加する一方、64歳以下の罹患数は減少傾向である。
- 死亡数は約6千人で横ばいである。



部位別がん罹患数と死亡数

- 2021年に新たに診断されたがんは、14,787例（男性8,542例、女性6,245例）で、部位別では、大腸・胃・肺が多い。
- 前立腺や乳房など性別特有のがんも多い。
- 2024年にがんで死亡した人は、5,997人（男性3,540人、女性2,457人）

部位別がん罹患数R3(2021)年

	男女計	男性	女性
1位	大腸 (2,356)	前立腺 (1,678)	乳房 (1,467)
2位	胃 (1,802)	大腸 (1,402)	大腸 (954)
3位	前立腺 (1,678)	胃 (1,225)	胃 (577)
4位	肺 (1,658)	肺 (1,134)	肺 (524)
5位	乳房 (1,472)	肝 (369)	子宮 (452)

出典：全国がん登録2021年症例報告

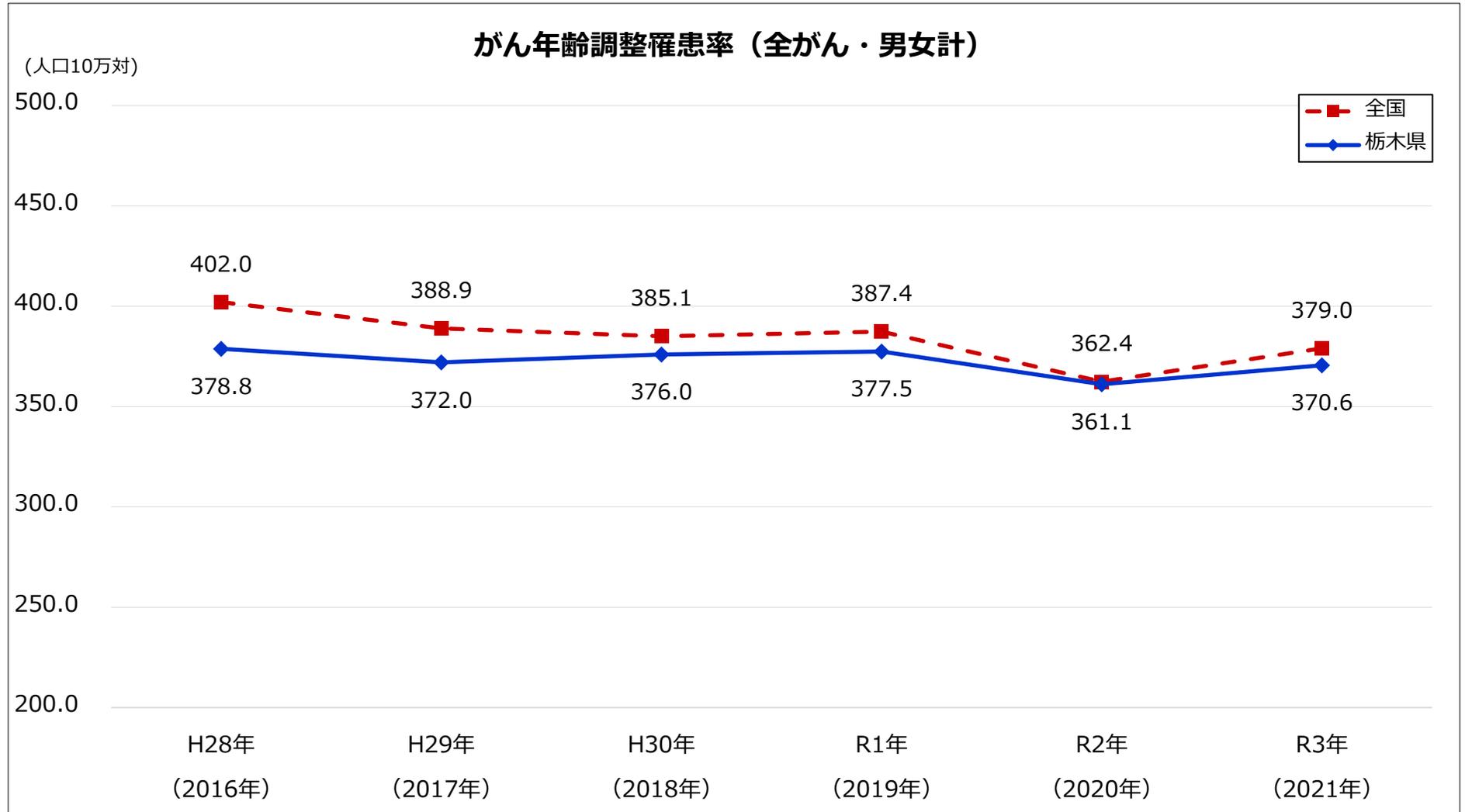
部位別がん死亡数R6(2024)年

	男女計	男性	女性
1位	肺 (1,160)	肺 (819)	大腸 (398)
2位	大腸 (858)	大腸 (460)	肺 (341)
3位	胃 (665)	胃 (447)	膵臓 (295)
4位	膵臓 (615)	膵臓 (320)	乳房 (230)
5位	肝 (334)	肝 (239)	胃 (218)

出典：令和6（2024）年人口動態統計

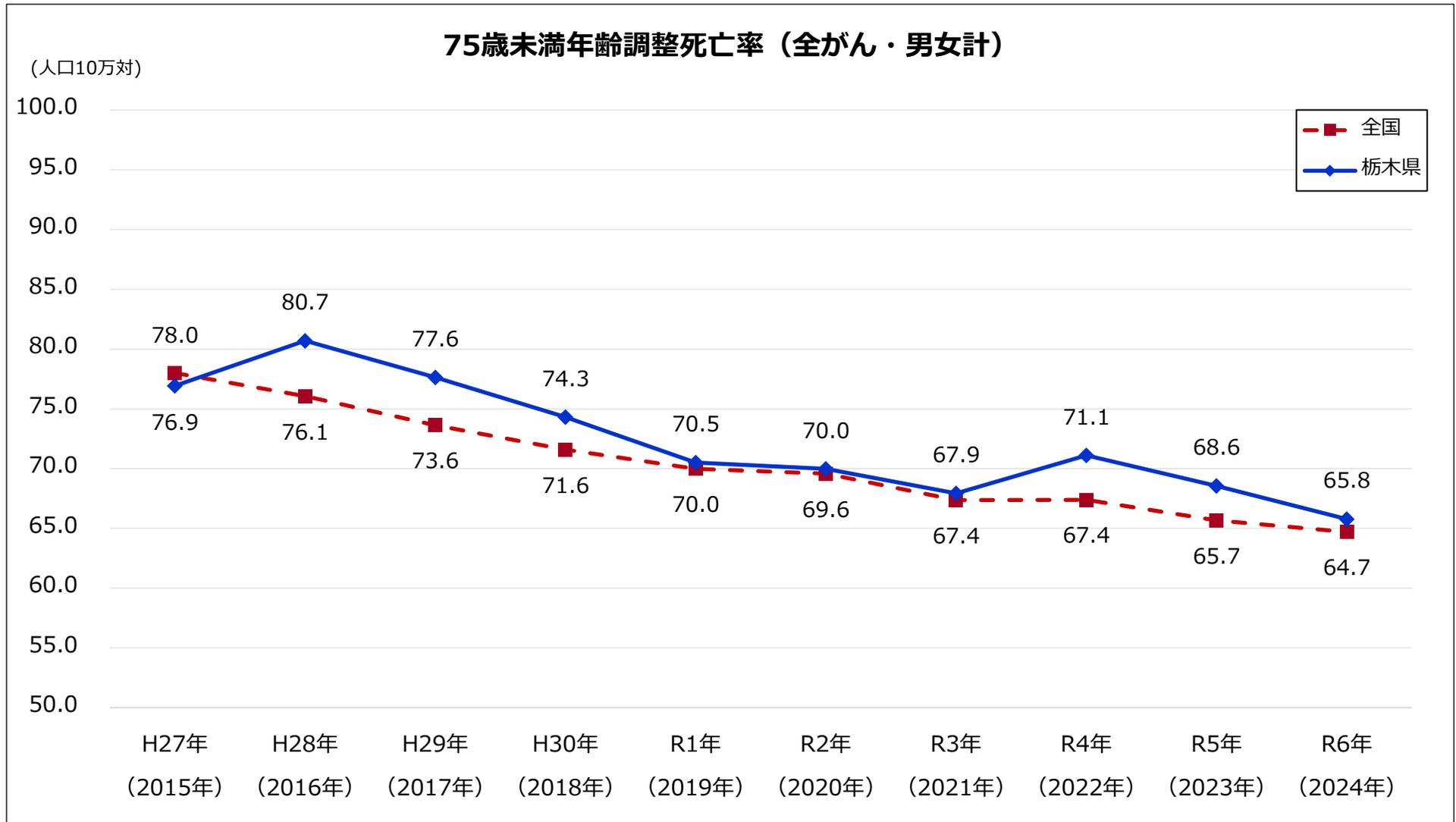
年齢調整罹患率の推移

- 年齢調整罹患率は**減少傾向**。R2はCOVID-19による影響もあり、一時的に大きく減少した。
- 本県は全国に比べ、年齢調整罹患率が低い。



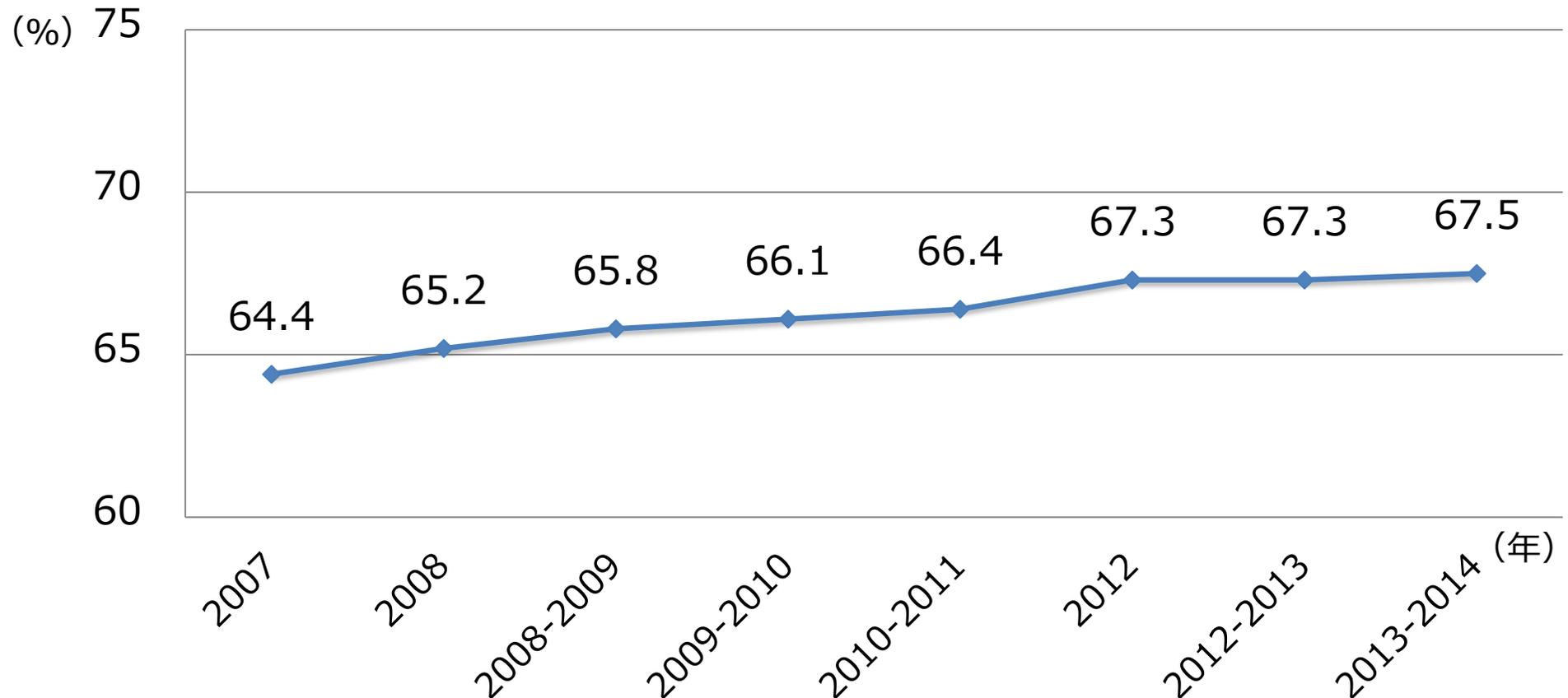
75歳未満年齢調整死亡率の推移

■ 75歳未満の年齢調整死亡率は減少傾向。栃木県の死亡率はH27～R6の10年間で11ポイント以上減少した。



5年相対生存率(全がん)の推移

■ がん医療(放射線療法、化学療法、手術療法)の進展等により、生存率は上昇している。



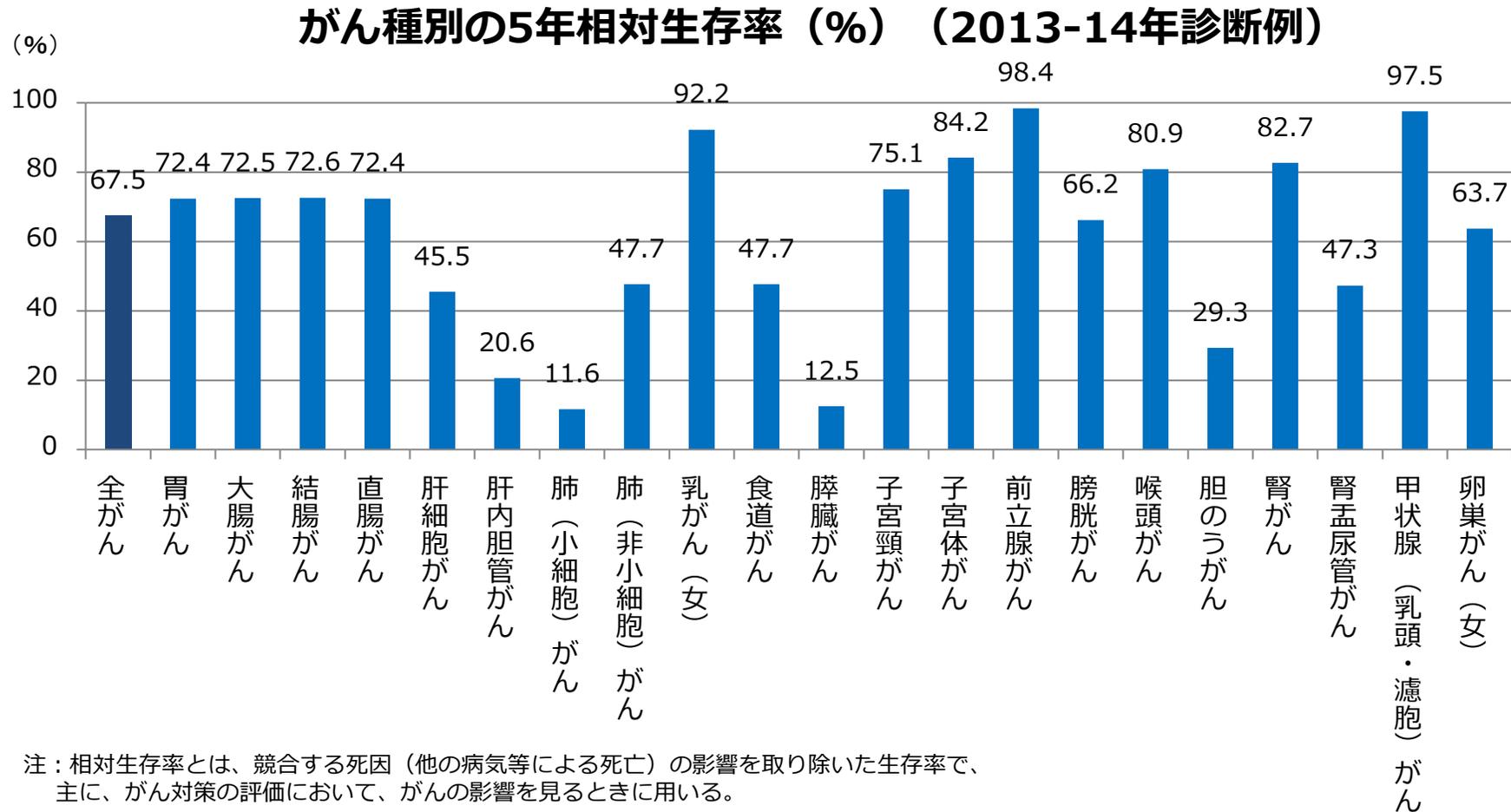
5年相対生存率とは、あるがんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらい低いかを示す。

(出典)院内がん登録2007, 2008, 2008-2009, 2009-2010, 2010-2011, 2012, 2012-2013, 2013-2014年5年生存率集計 報告書
(国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策研究所 がん登録センター)

部位別の5年相対生存率（%）

（院内がん登録5年生存率集計結果（2013-14年診断例））

■ 全がんでの5年生存率は上昇しているものの、未だ予後不良のがん種も存在する。

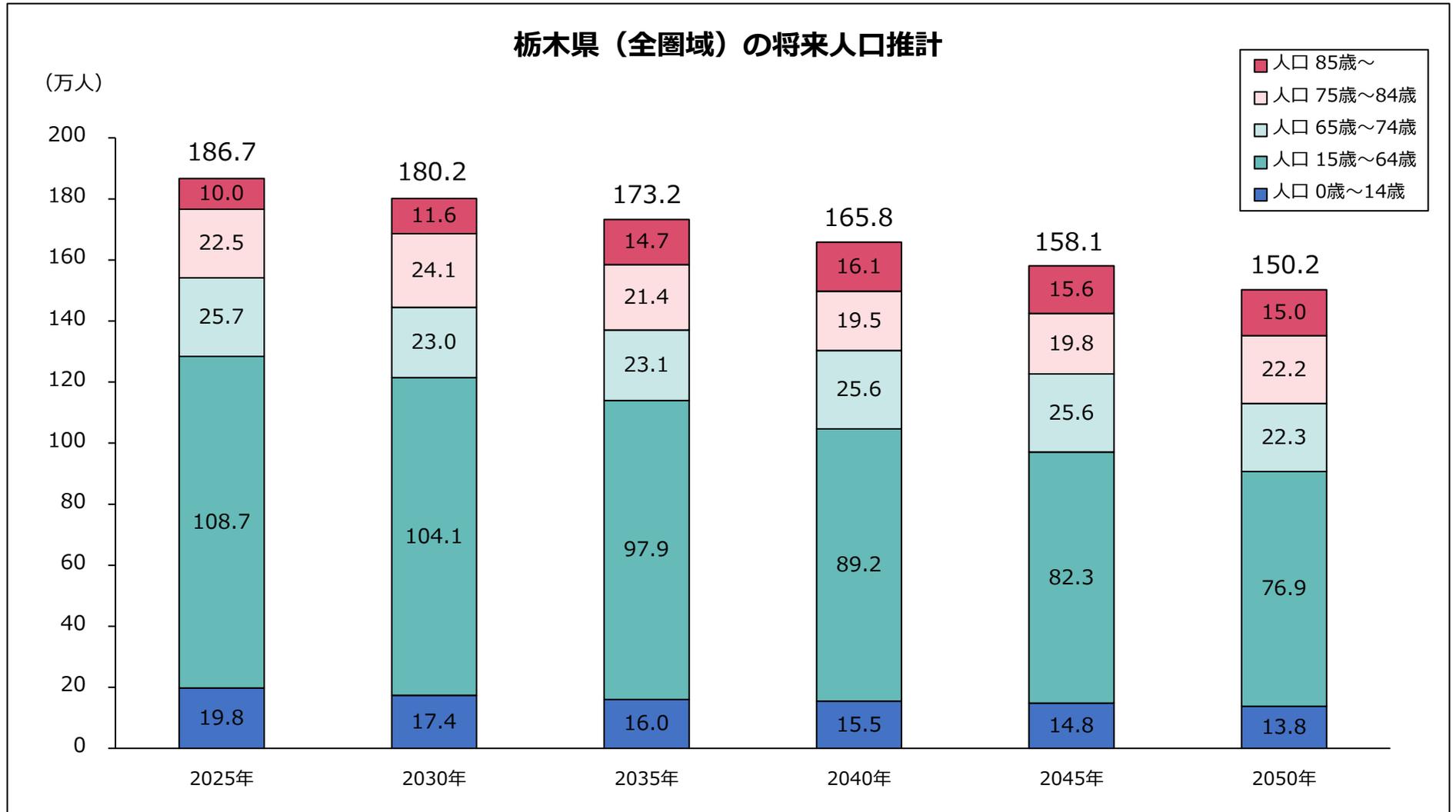


（出典）国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録5年生存率集計結果（2013-14年診断例）」（令和3年12月公表）をもとに作成
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

栃木県のがん患者等の 将来推計

将来人口推計

■ 2040年までは65歳以上の高齢人口の増加がみられる。一方で64歳以下の生産年齢人口は減少する。

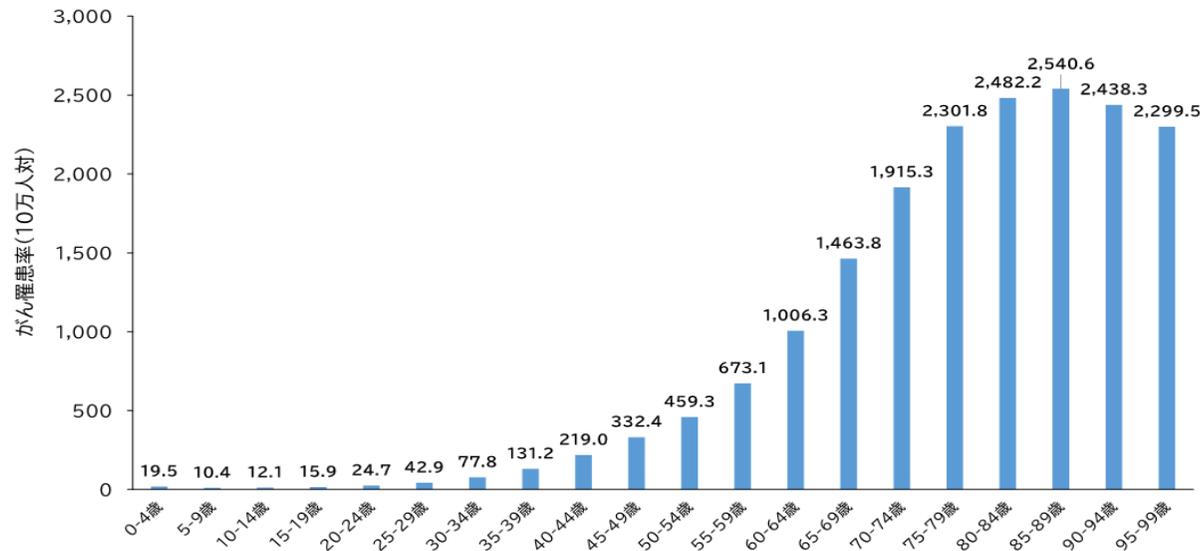


がん罹患患者数の将来推計

■ がん罹患患者数の推計計算式

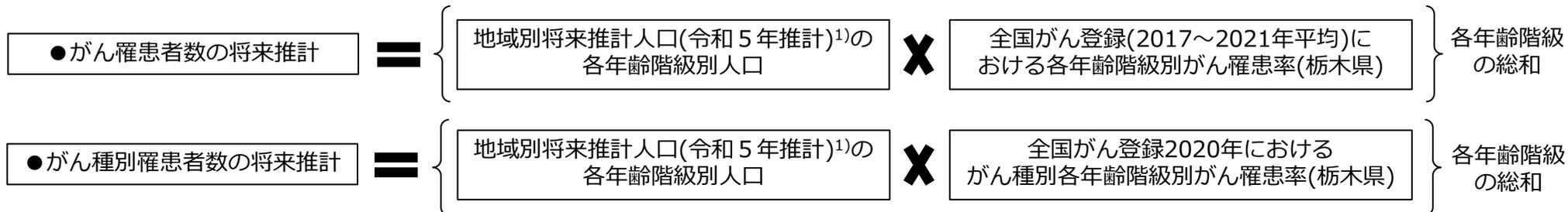
我が国における年齢階級別がん罹患率（全国）

- ・ がん罹患率は加齢とともに上昇し、85-89歳をピークに90歳以上は低下する。



※ここで算出する将来推計は、各年齢階級別のがん罹患率が、2050年まで一定で推移すると仮定した場合の罹患患者数の推計である

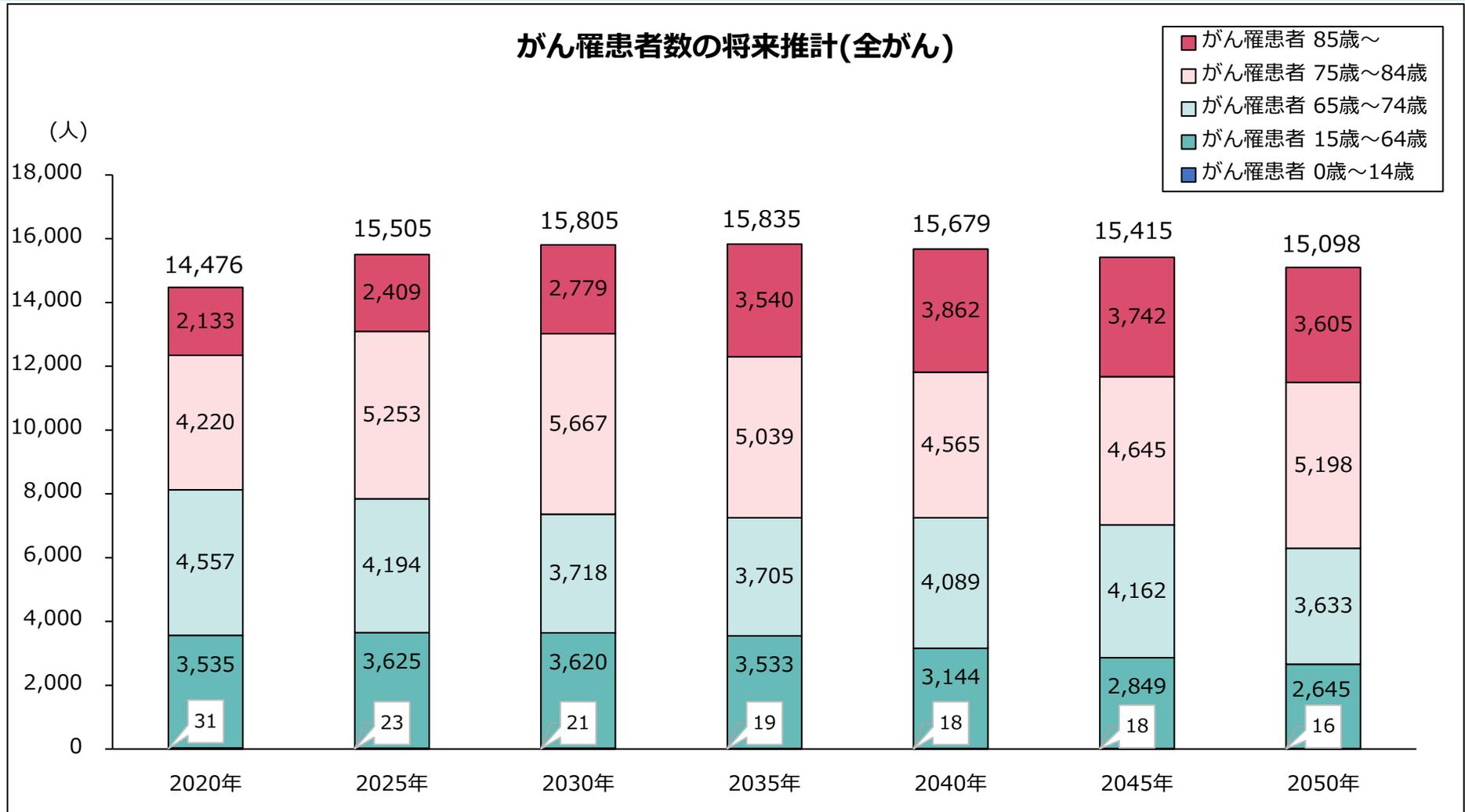
出典：全国がん登録によるがん罹患率データ(2017年-2021年)を用いて国立がん研究センターにおいて作成



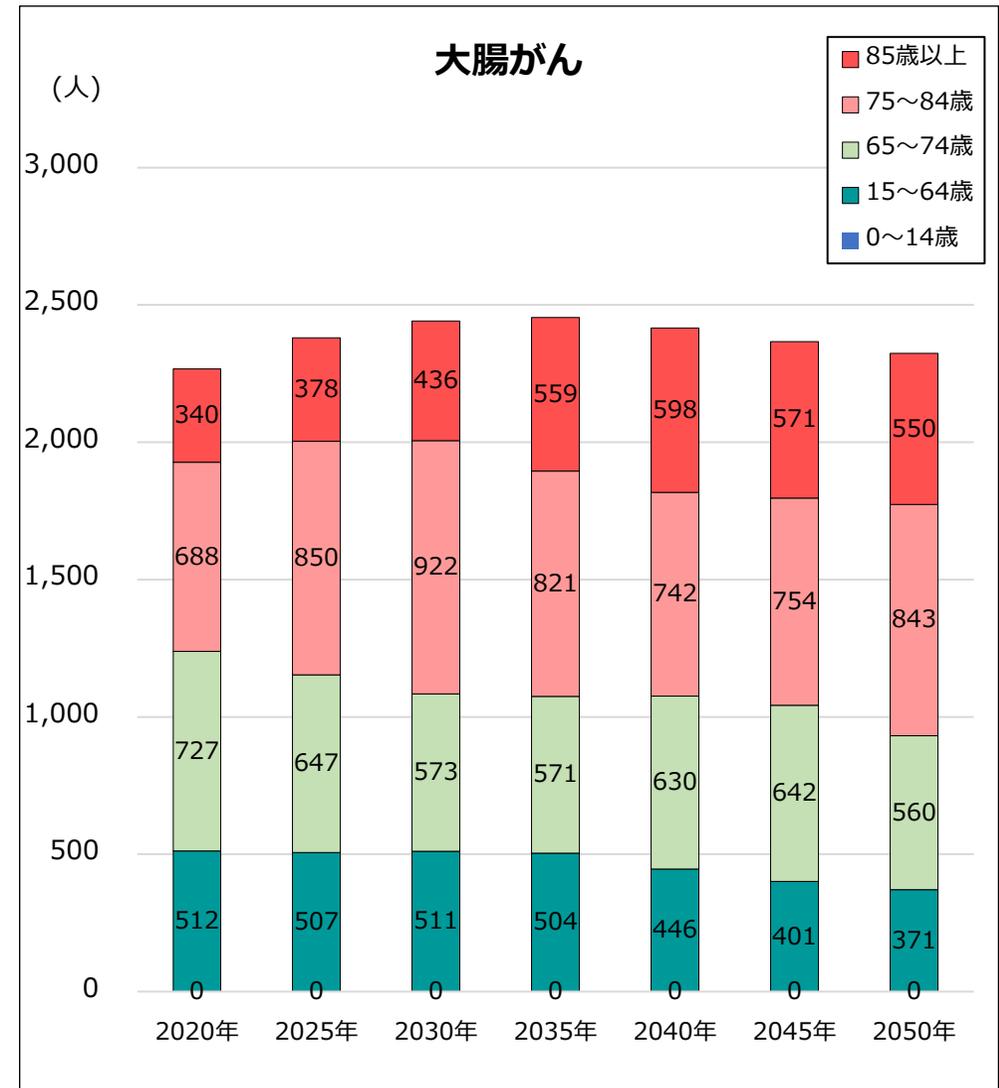
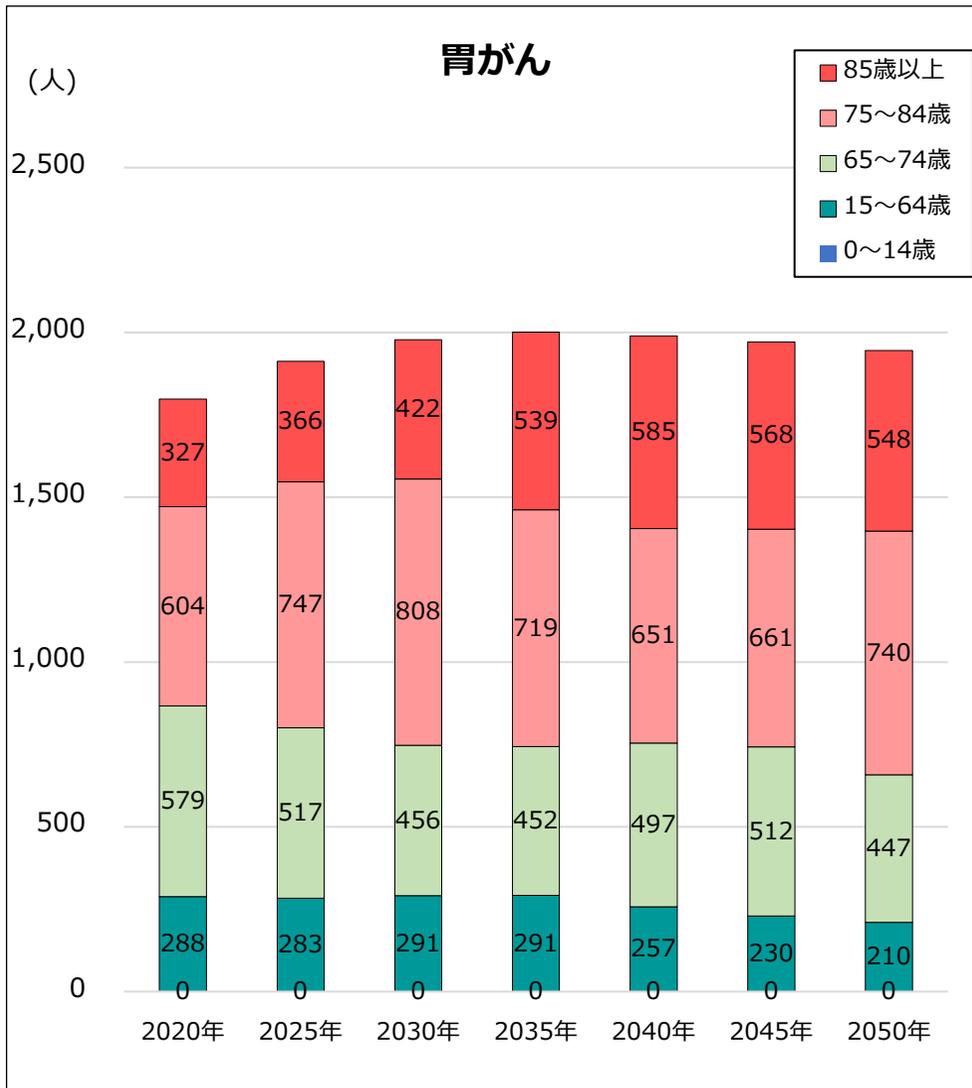
1) 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口を引用

がん罹患者数の将来推計

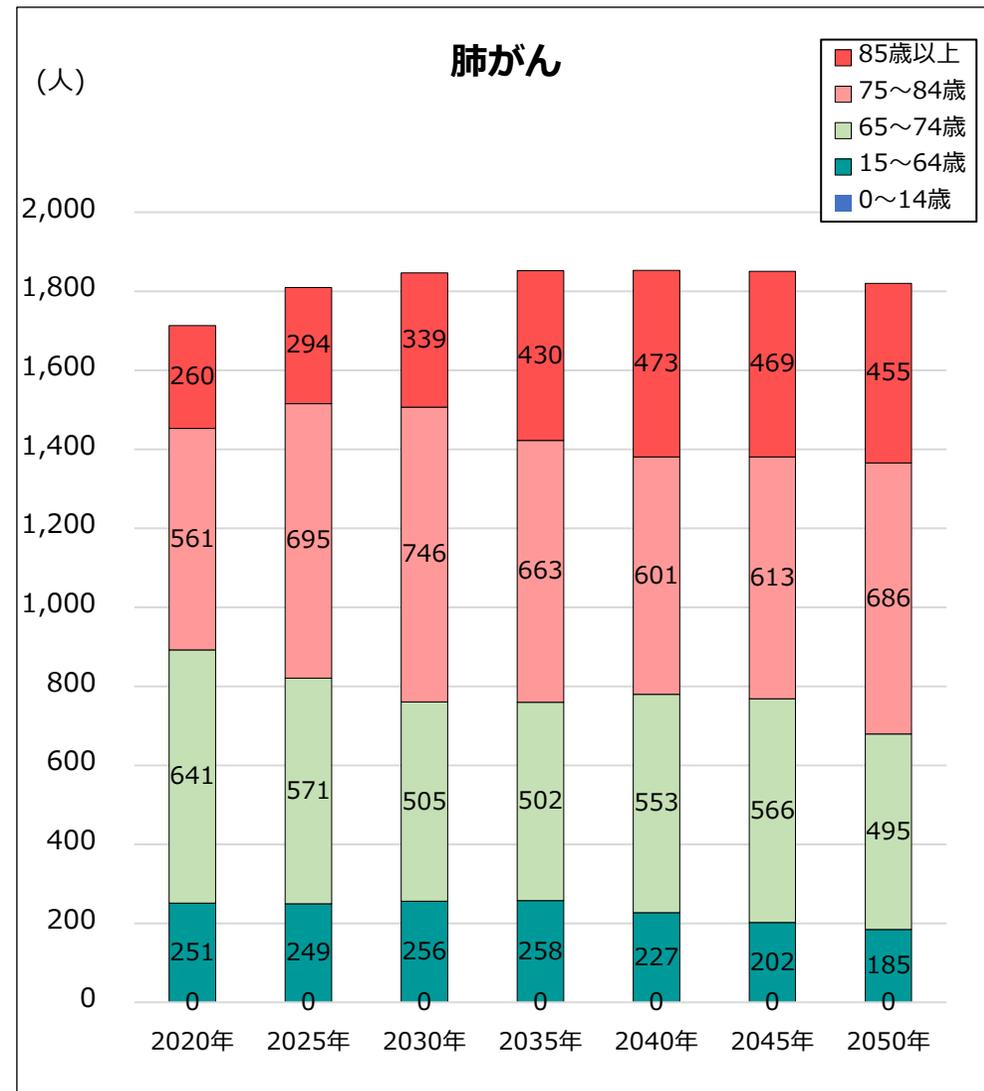
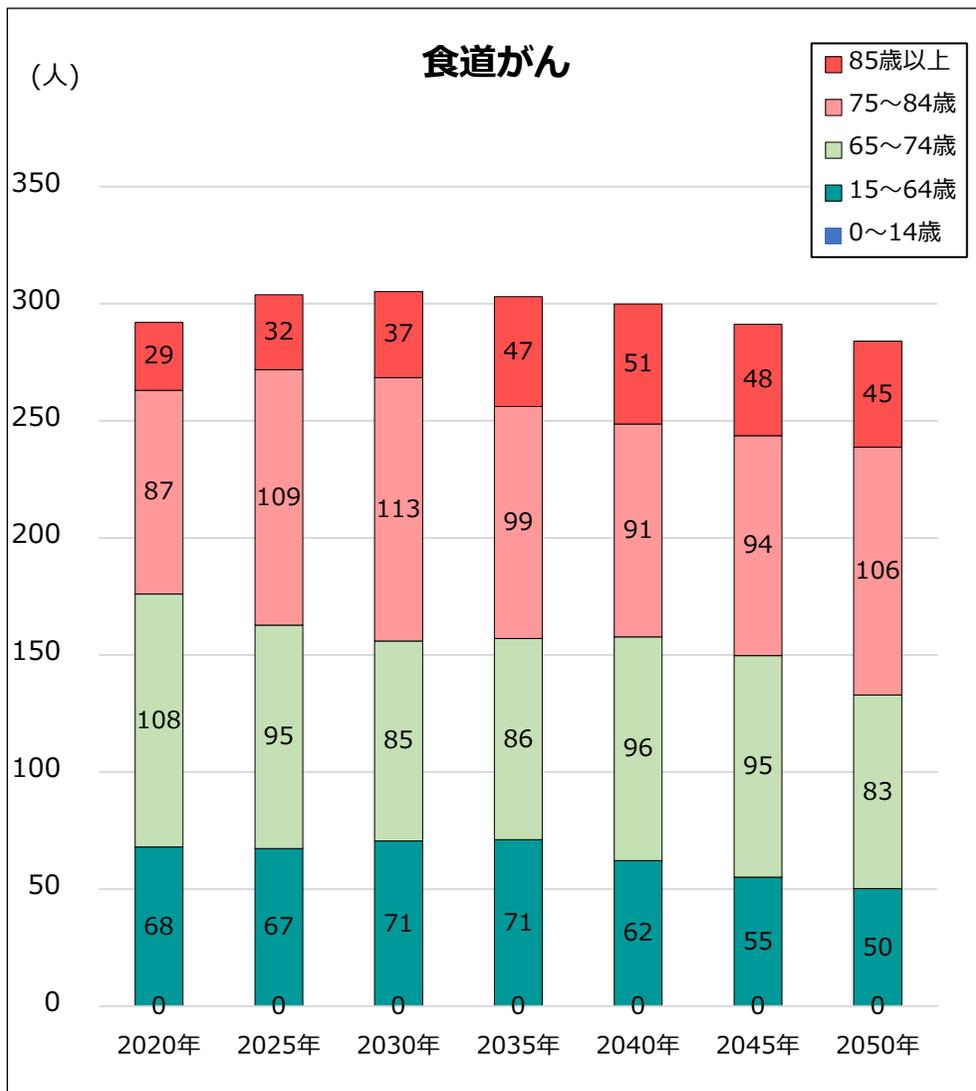
- 2035年には15,835人で最大となり、2020年の14,476人から9%程度増加することが推計されている。
- 特に、85歳以上は2025年の約2,400人から、2040年には約3,900人と62.5%増加することが推計されている。
- なお、2040年以降は減少が見込まれている。



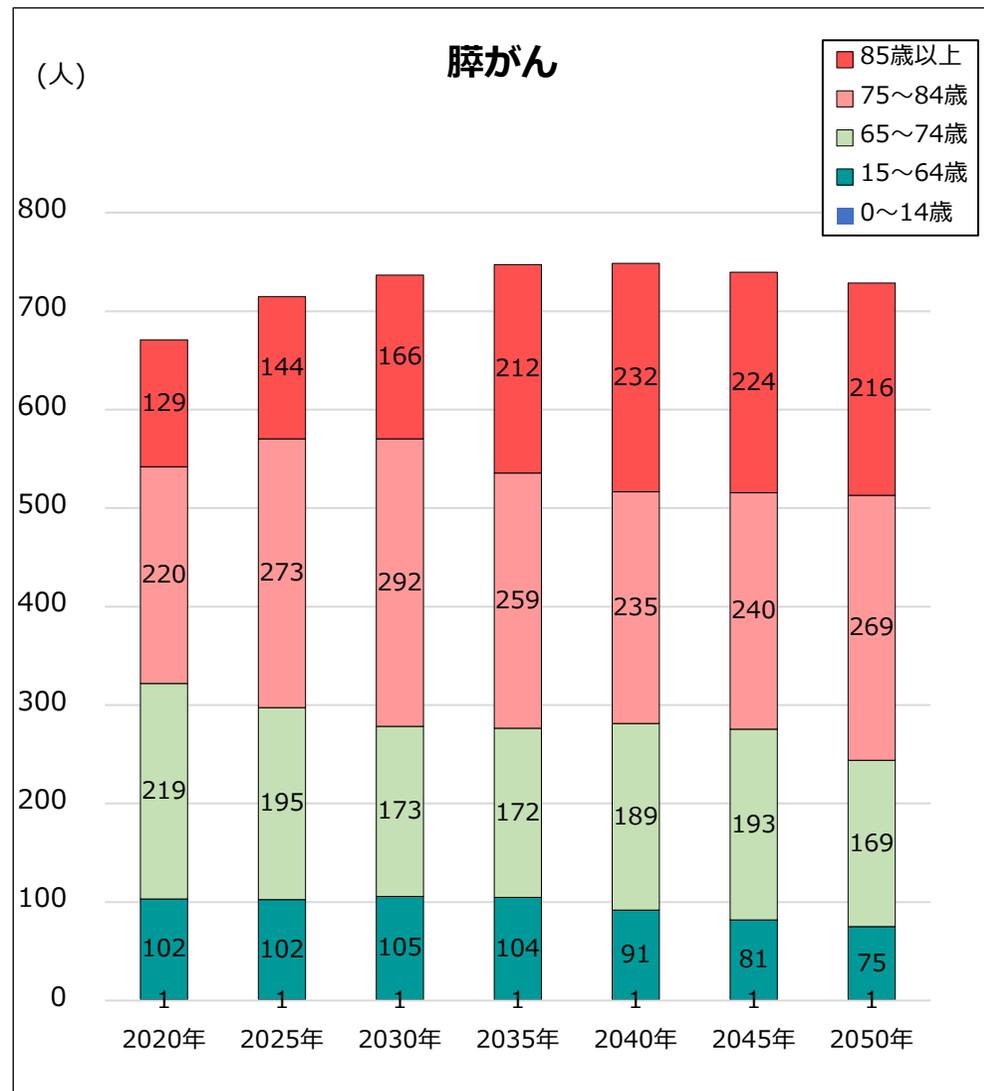
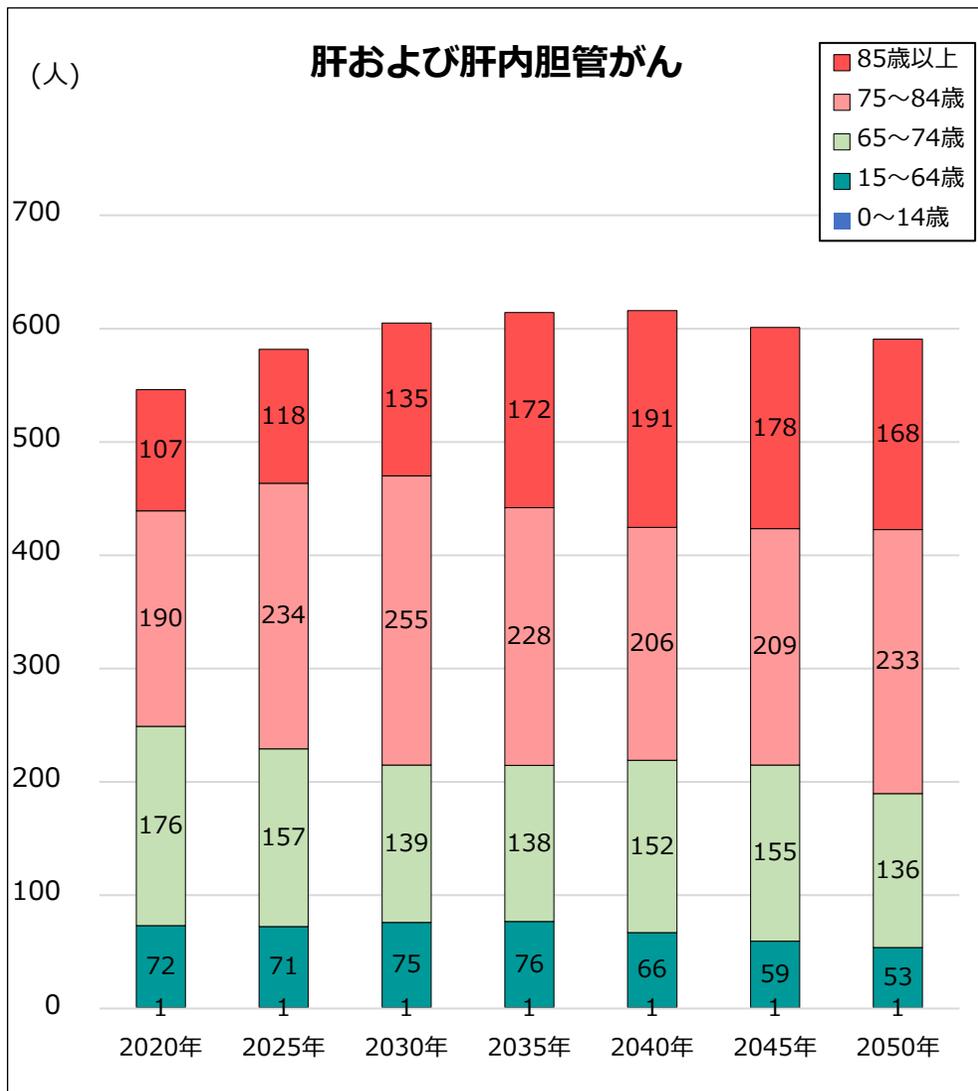
がん種ごとの罹患者数の将来推計①



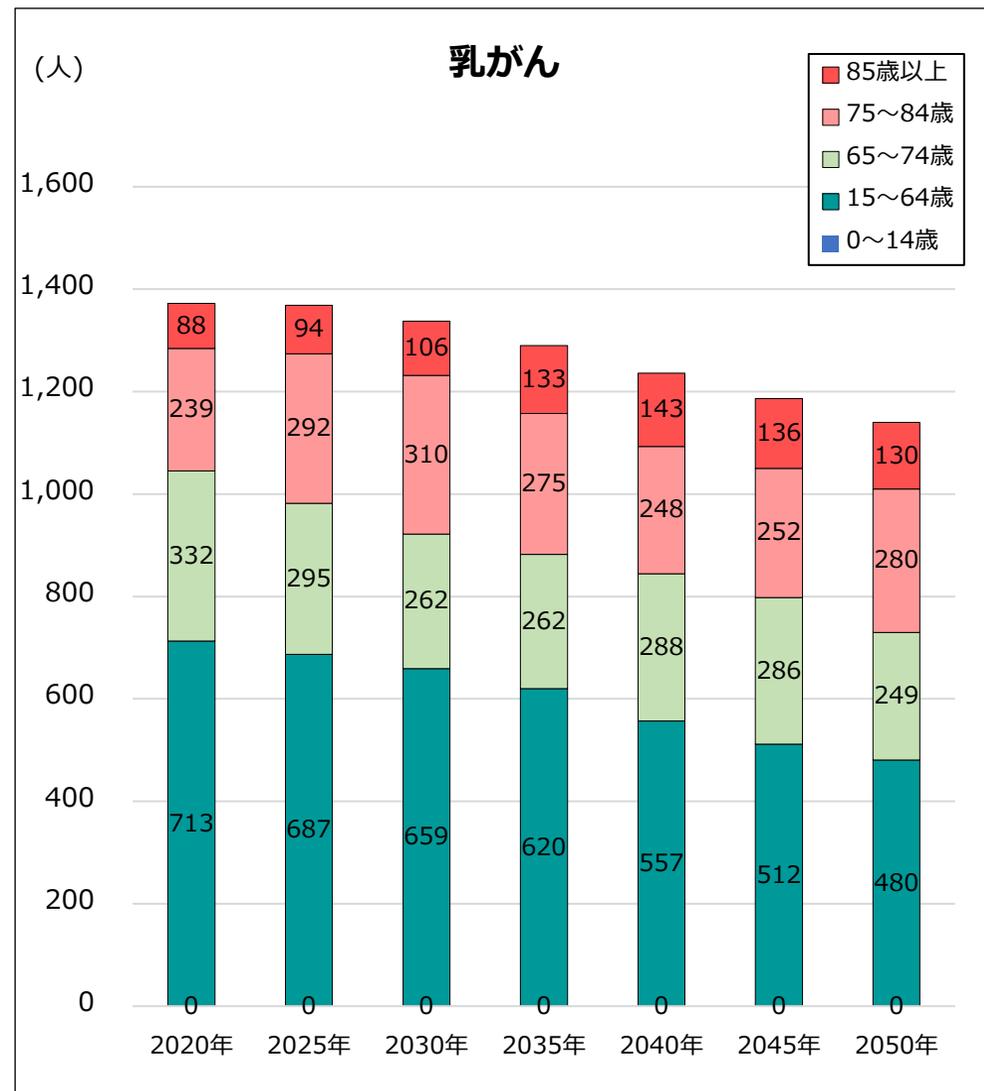
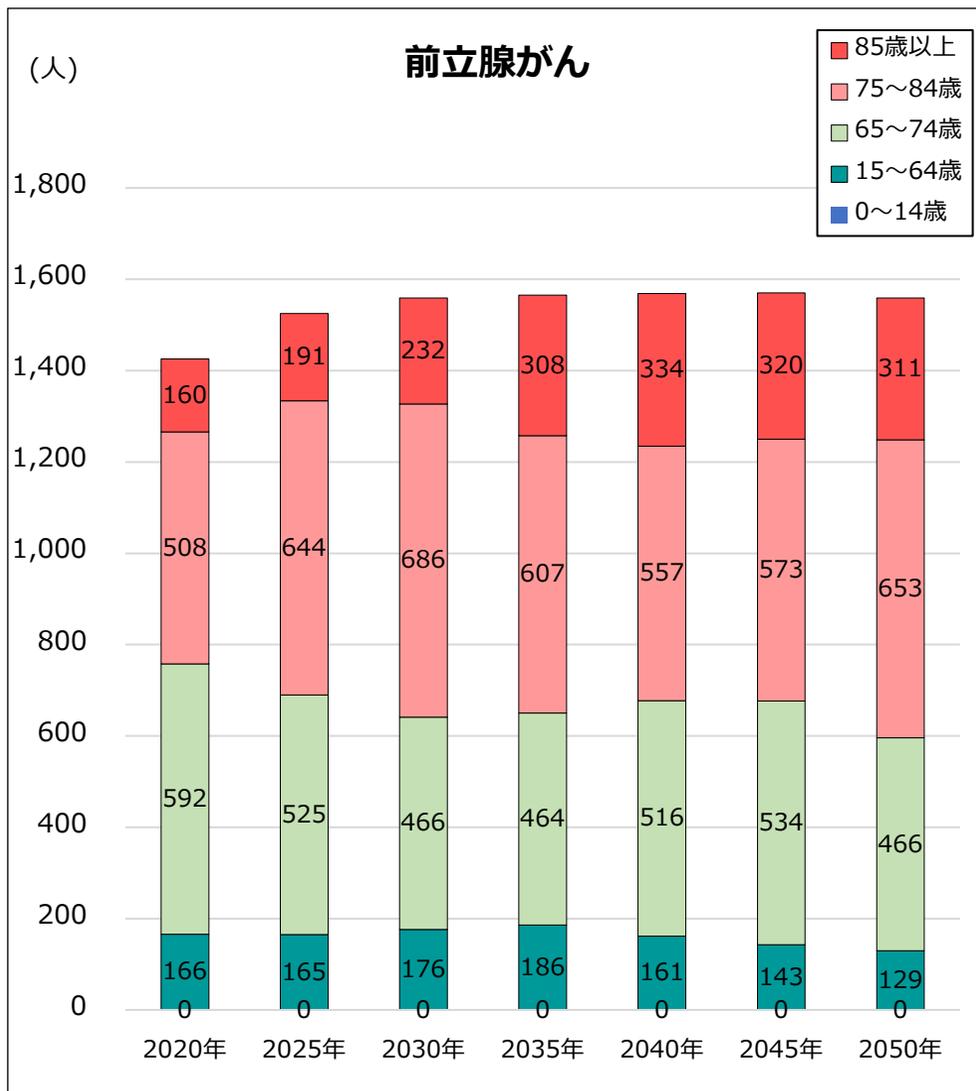
がん種ごとのがん罹患患者数の将来推計②



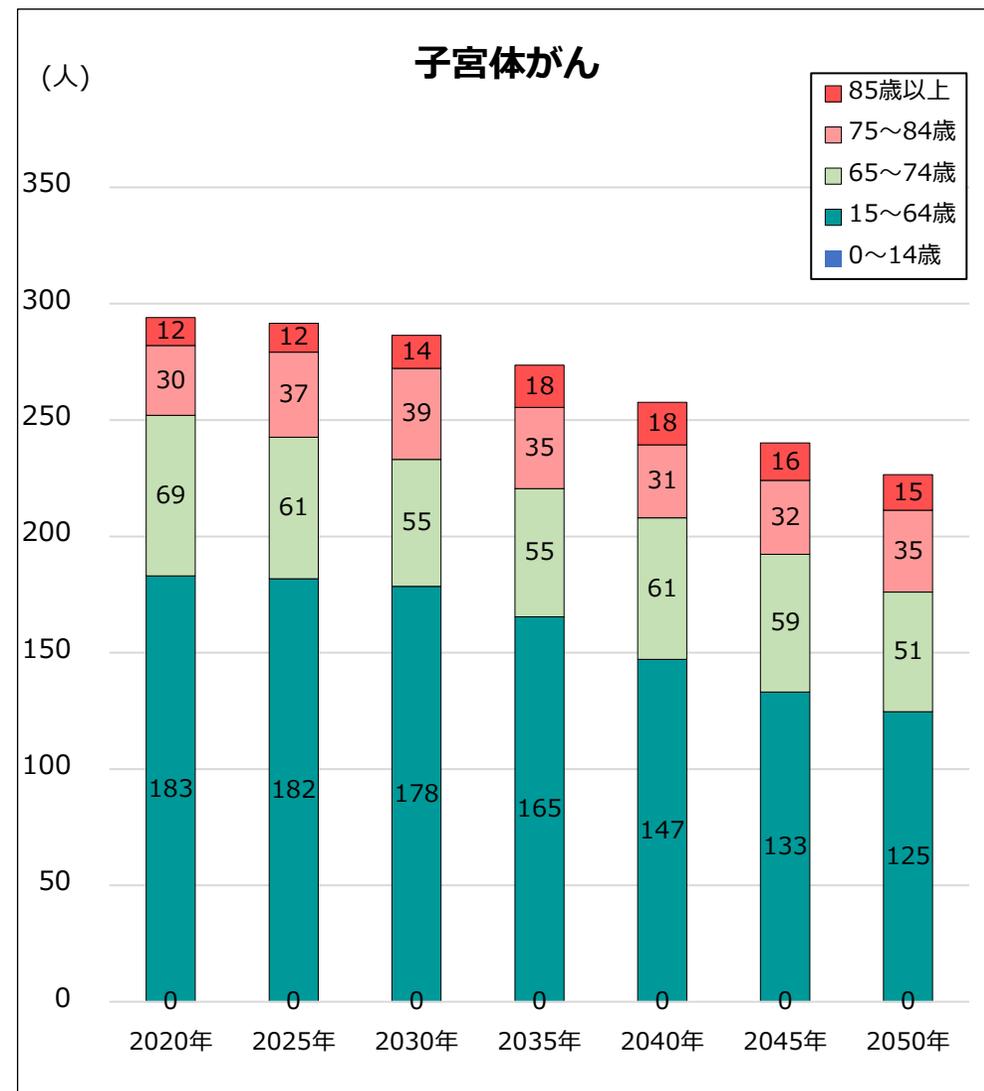
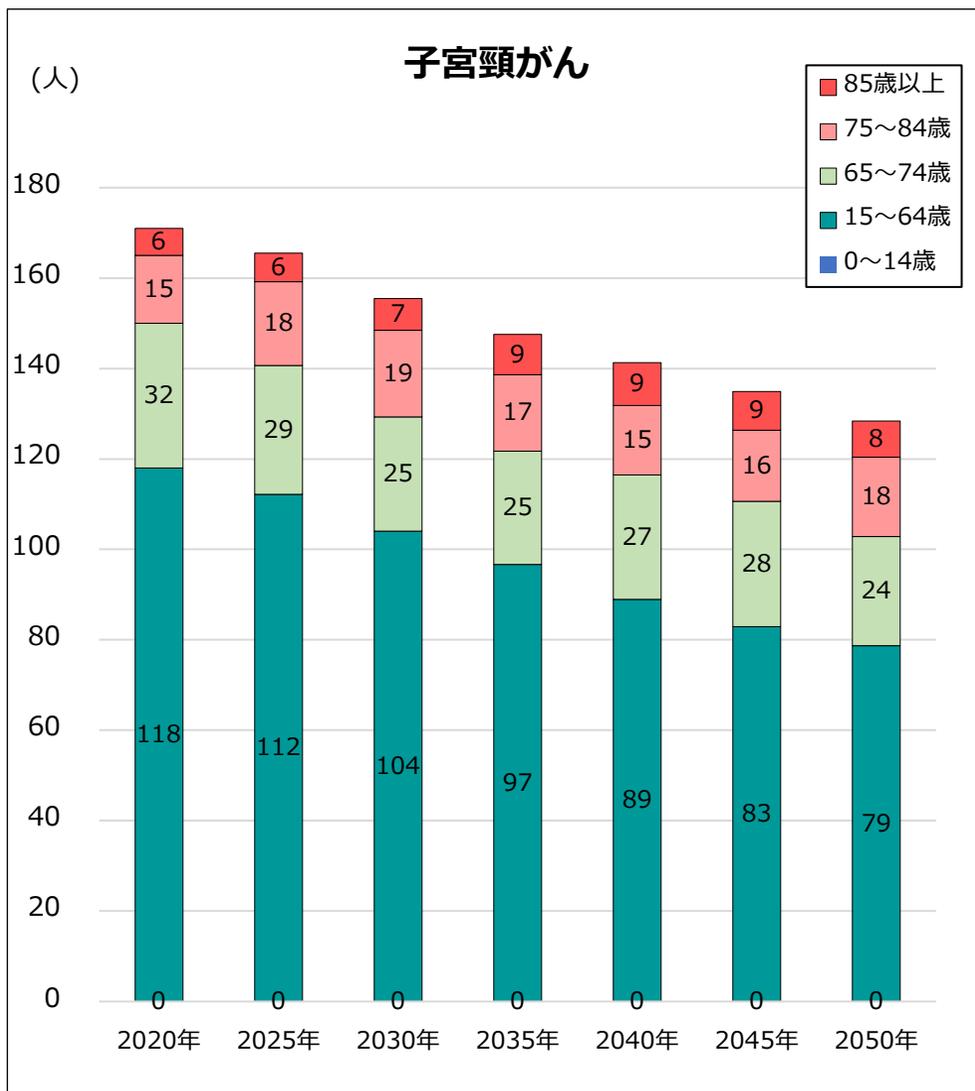
がん種ごとのがん罹患患者数の将来推計③



がん種ごとのがん罹患患者数の将来推計④

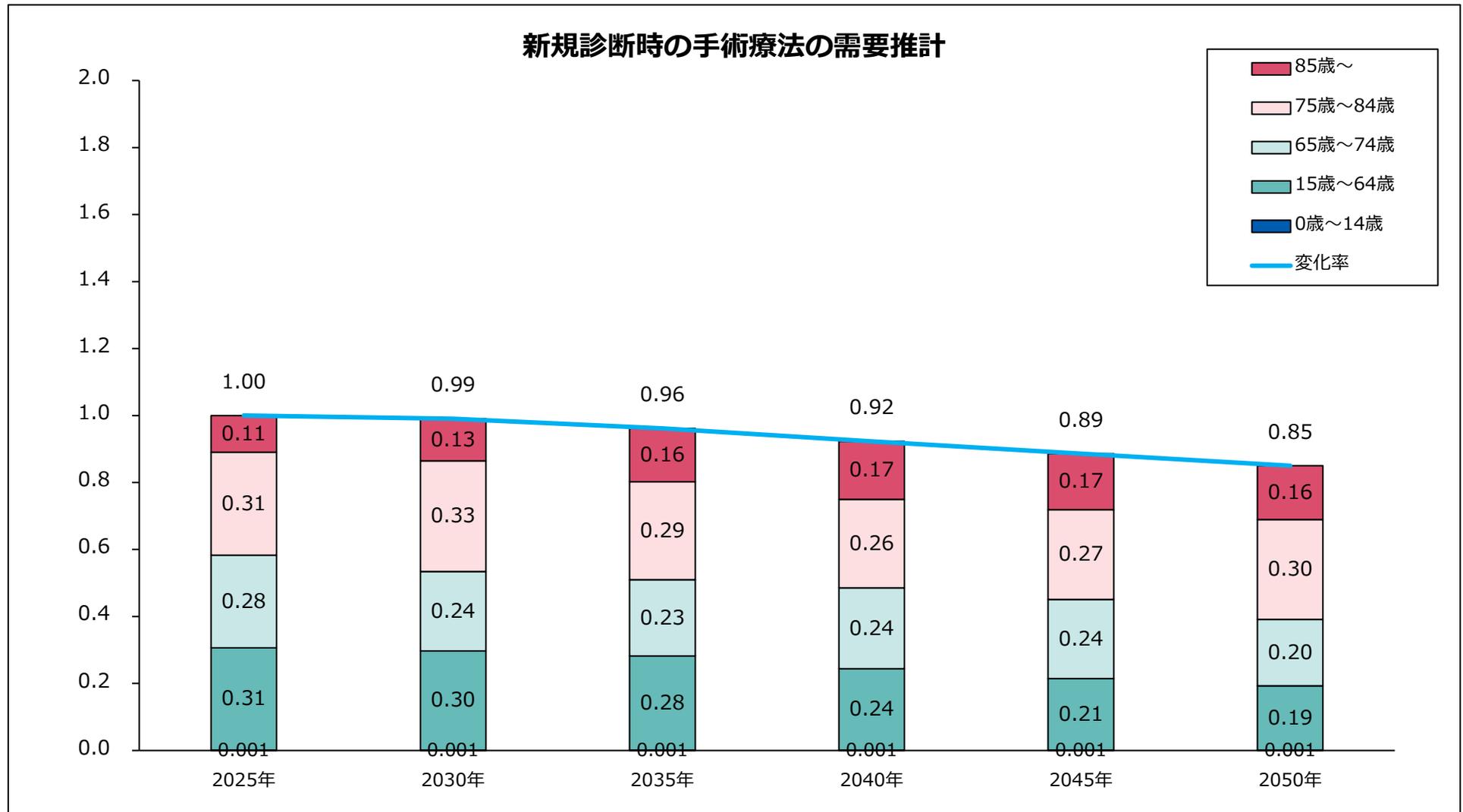


がん種ごとのがん罹患患者数の将来推計⑤



新規診断時の手術療法の需要推計

- 手術療法の需要は、85歳以上の患者において一時的に増加するものの、全体としては2025年比で2040年に向けて8%、2050年には15%減少することが見込まれている。



スライド17頁と同様の推計に院内がん登録から引用した手術療法の実施割合を乗じて算出した実施数に対し、2025年を1.0とした場合の変化率を推計

新規診断時の放射線療法の需要推計

■ 放射線療法の需要は、2025年比で、2040年までに21%、2050年には32%増加することが見込まれている。



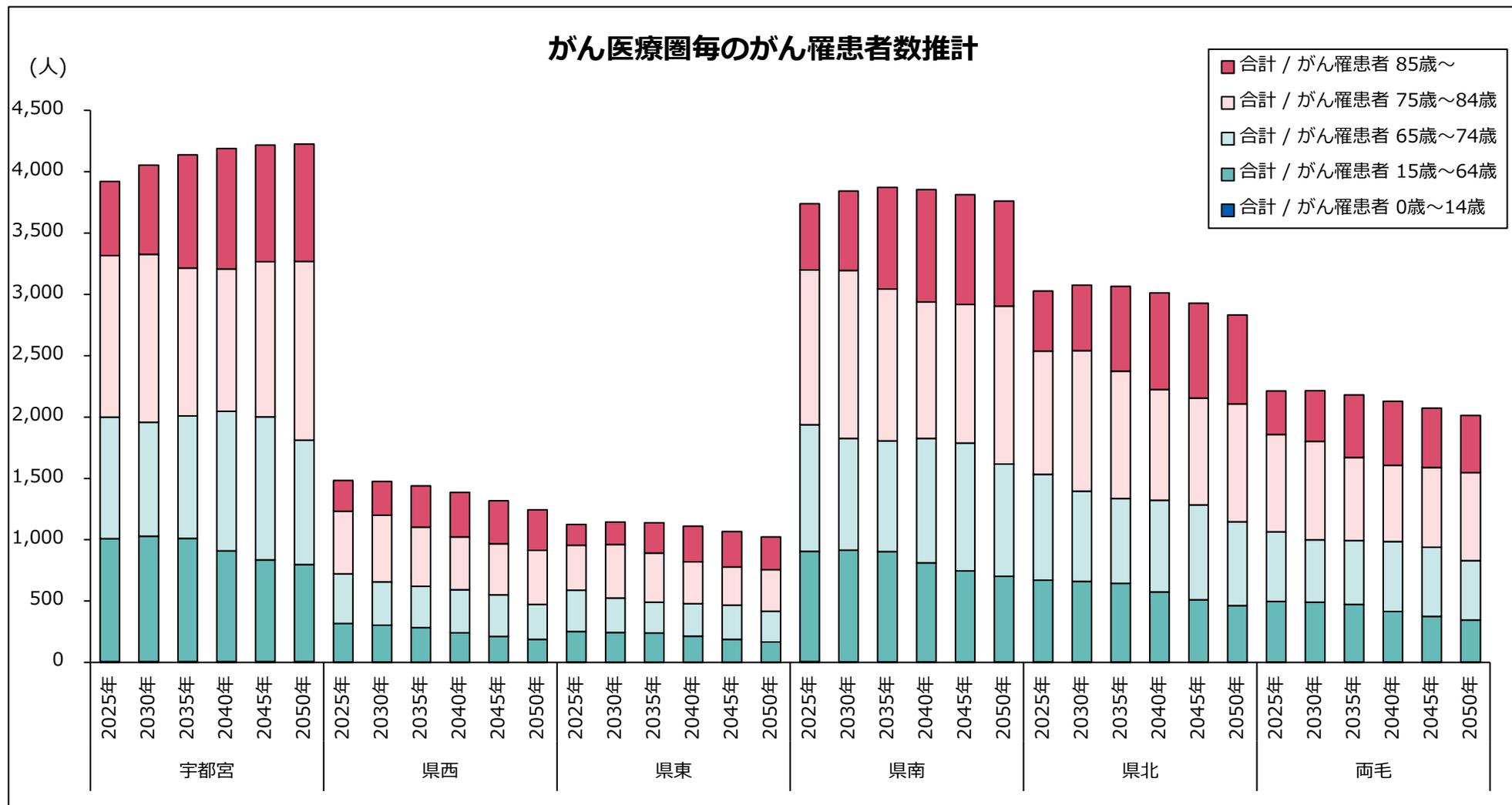
新規診断時の薬物療法の需要推計

■ 薬物療法の需要は、2025年比で、2040年までに11%、2050年には17%増加することが見込まれている。



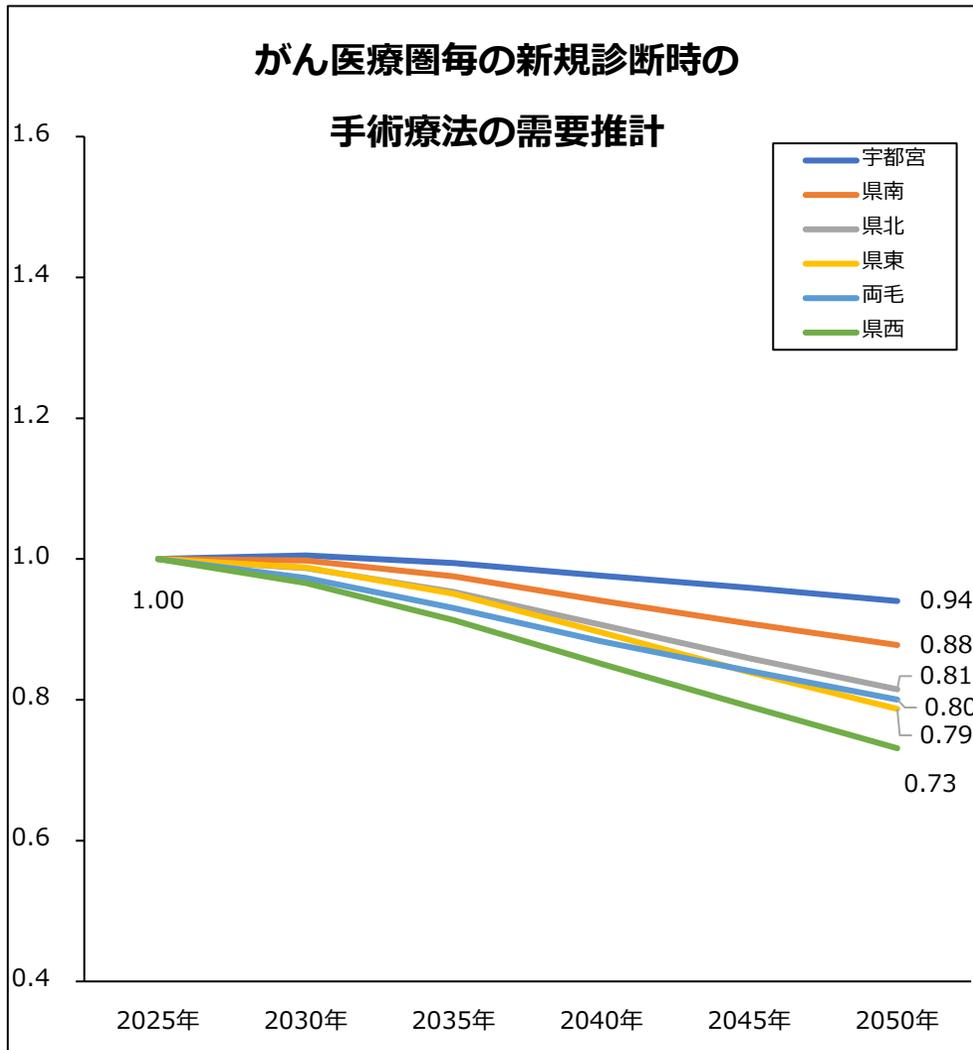
スライド17頁と同様の推計に院内がん登録から引用した薬物療法の実施割合を乗じて算出した実施数に対し、2025年を1.0とした場合の変化率を推計

(参考)がん医療圏ごとのがん罹患者数の推計

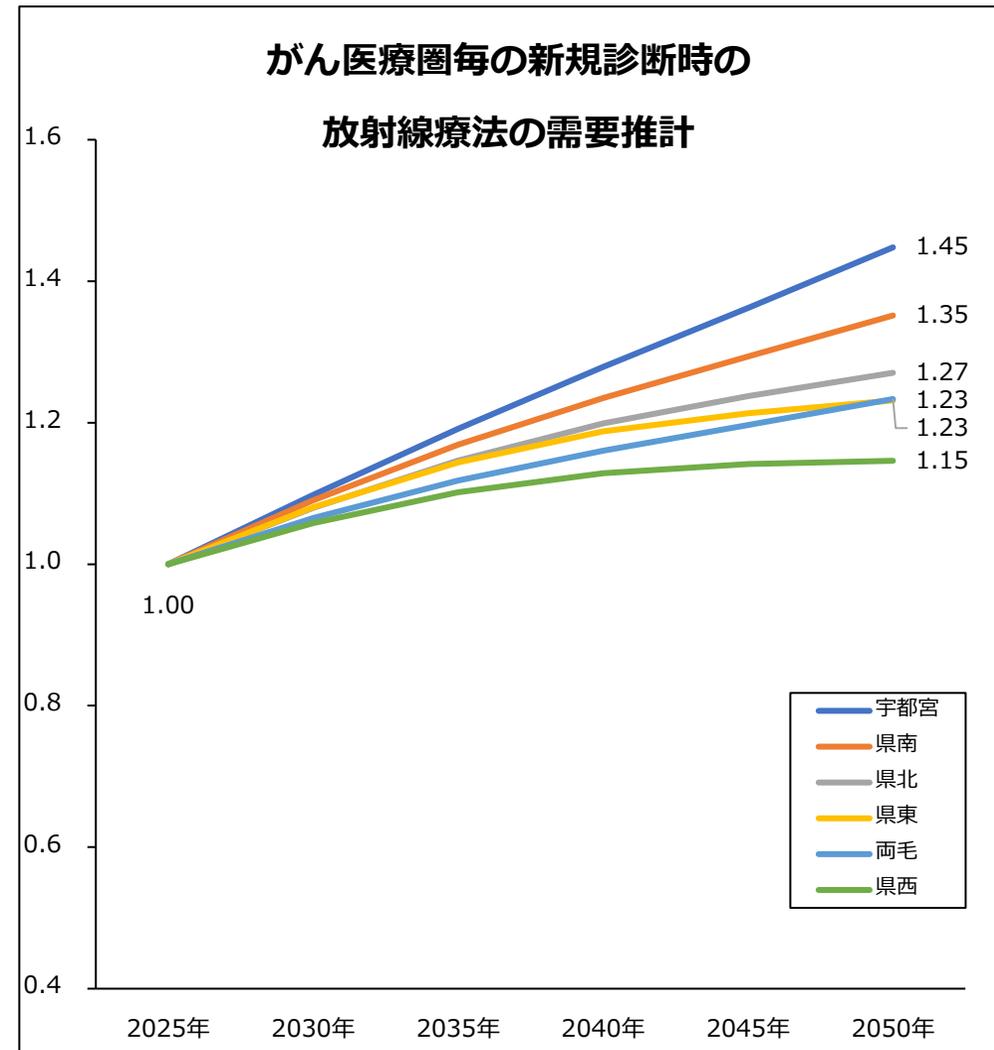


(参考)がん医療圏ごとの手術・放射線療法の需要推計

がん医療圏毎の新規診断時の
手術療法の需要推計



がん医療圏毎の新規診断時の
放射線療法の需要推計



(参考)がん医療圏ごとの薬物療法の需要推計

がん医療圏毎の新規診断時の
薬物療法の需要推計

